

大学スポーツの価値について

—一人のサッカー指導者の語りから—

日本語学ゼミナール 1316061 町田 佳穂

1. 研究動機・研究目的

「大学スポーツに取り組む」というと、選択肢は選手だけでない。一般財団法人全日本・関東大学サッカー連盟（以下、学連）の学生幹事としてこれまで活動してきた中で、大学スポーツには様々な関わり方があることを知った。コーチングスタッフやトレーナー、マネジメントを支える主務、マネージャー、大会運営をする学連スタッフ。選手だけでない競技への関わり方が大学スポーツには存在する。大学生は、社会に出る最後の準備期間である。4年間という時間をどのように過ごすかは人それぞれであり、将来像も人それぞれである。競技スポーツに関わりながら、プロ選手を目指す者、公務員を目指す者、会社員を目指す者、様々な選択肢を模索しながら、大学で競技スポーツに向き合うことは「勇気ある選択」だと考える。特にプロ選手への道を進むことができる人は、ほんの一握りである。大学生という自由と誘惑のある時間は、自分自身の将来像への意志を試される。そして、自分を律することの必要性を学ぶ。それぞれの将来像や目標に向き合いながら、同じ組織に属し、組織として同じ目標に向き合う大学スポーツには様々な魅力、可能性を感じている。そして、その可能性の分だけ、大人一歩手前のような我々学生の指導をする指導者という立場にある人の存在は非常に重要であると考えた。「大学で競技スポーツに取り組む」ということは、どういうことか。学連での活動から、大学サッカーにはプロを目指すこと以外に目標設定をする選手に多く出会った。社会人として世に出ていく前の4年間に、競技スポーツに取り組む選択をする意味とは何か。また、技術を磨くことだけではない、大学スポーツに存在する「何か」について、研究をし、大学スポーツにある価値を明らかにする。

2. 研究方法

本研究では、指導者へのインタビューを行い、質的データ分析のための手法である SCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いて分析を行う。インタビュー対象者は、2019年現在順天堂大学スポーツ健康科学部にて学部長を務める吉村雅文氏である。2019年9月27日に吉村氏に1時間ほどのインタビューを行った。本人の許可を得て録音し、その後文字起こしをした。なお、吉村氏より実名を入れる許可をいただいている。

3. 主な結果と考察

本研究では、長年学生教育、大学サッカーの指導に携わってきた吉村氏のインタビューを分析することで、大学スポーツの持つ価値について考えた。研究を進めていく中で、大学スポーツ、大学サッカーの持つ価値とは2つあると考えた。

1つは、同世代へ与える影響と、同世代から受ける刺激である。チームという組織には様々な人がいる。同じような将来設計をしている者、全く別の将来設計をしている者、将来的

に日本のサッカー界で選手として活躍することを目標に掲げている人など本当に様々な人が組織には存在する。その中で、各々が自身で考え発言、発信していくことは、組織に属する一人ひとりにとって捉え方は異なる。周囲からの声で、自分自身を見つめ返し、これまでの自分から脱却していく。自分自身を変える機会やキッカケが、日常のいたるところにある。プロの世界では、年齢も異なり、同じチームに集まるのは同じようなキャリアを持つ人間ばかりである。しかし、大学サッカーには、同じようなキャリアを歩んできた人ばかりではない。育った環境も、これから見据える将来も異なる。そんな人が集まる組織で受ける刺激は大学スポーツならではだろう。また、自分自身が考えて行動したことが周囲へ与える影響も大きい。社会に出ていく手前、多くの方が自身の今後のキャリア形成を考える。その中で、誰しもが時に迷い、悩み進んでいる中で、自分自身の意思を持ち、考え発言発信できる力を持つ人間は、周囲へ大きな影響を与える。これは、20歳以上も年の離れた指導者から言われることよりも影響は大きく、同い年、同世代だからこそ、生まれる刺激である。

2つ目は、競技以外のことに触れる機会があるということである。これは、将来的にスポーツ界で選手として活躍することを熱望する者にとっては、時として誘惑とも捉えられるが、大学スポーツには大学生だからこそできる経験や時間の使い方があると考えた。講義はもちろんのこと、部活動をはじめアルバイトやインターン、就職活動、ボランティア等様々な機会がある。他の競技に取り組む機会もあるだろう。自分自身の競技以外のことに触れる時間を経験することは、大学生ならではの時間の使い方であるとも考える。そして、競技以外のことに触れることで、自分自身にとっての競技への考えや、自身にとってその競技に取り組むことへの重要性を考え、将来設計をしていく。様々な経験の中で、考えを深めていくことのできる機会が大学生にはある。競技力向上だけがすべてではない。このことは大学スポーツにとっての大きな価値であると考えている。

以上2点が本研究からの考察である。

4. 結論

本研究では、長年大学サッカーの指導に携わってきた吉村氏にインタビューのご協力をいただき、大学サッカーに焦点を当て分析を行った。研究から大学スポーツの価値とは、「同世代へ与える影響と、同世代から受ける刺激」そして「競技以外のことに触れる機会があるということ」というの2つを言語化し、示すことができた。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたり、多くの方々に支えていただき、恵まれた環境で学ぶことができる喜びを感じる事となりました。特に指導教員である大野早苗先生には多くの助言をいただきました。また本学学部長である吉村雅文氏先生には、お忙しい中インタビューにご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げ、感謝の意を表します。

本研究を通して、改めて大学スポーツの可能性を深く感じる事ができました。今後の自分自身の活動の糧となることはもちろんのこと、この学びを次のフィールドへ繋げていきたいと思っております。